

氏名： 宮内 貴久 (MIYAUCHI Takahisa)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 博士 (文学) (2003 年 筑波大学)
専門分野： 民俗学、文化人類学
E-mail： miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

大工／建築儀礼／風水／家相／由緒書

◆主要業績

- ・「奥会津の番匠巻物」笹原亮二編『口頭伝承と文字文化－文字の民俗学、声の歴史学－』（思文閣出版、2009年1月、122～148頁）
- ・「三輪神道系大工儀礼書の展開－『皇法御流工匠相傳之巻』を中心に－」『文字文化は庶民の生活をどのように変えてきたか』科学研究費補助金報告書（2009年3月）
- ・「八王子市南町の山車」『八王子市山車報告書』（2009年3月）

◆研究内容 / Research Pursuits

今年度も大工が所蔵する巻物について、①所在調査、②内容の解説を行った。今年度の調査で、三輪神道系の巻物も兵庫県、徳島県に存在することが確認された。特に徳島の史料は会津の史料とほぼ同じ内容であり、また17世紀中頃のもので、これまで知られている史料の中でも非常に古いことが確認された。さらに、三輪神道系統のテキストが読み手によりどのように省略加筆、すなわち編纂されているのか検証してきた。その結果、主要な建築儀礼については省略されないが、儀礼の細部と大工道具由来譚は省略される傾向が明らかとなった。

風水研究では長野県飯田市を中心に活動していた松浦琴生という風水師について、明治30年代の活動状況について検証した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

2008年度は学部では以下の8科目を担当した。「民俗学」では民俗学の概説を行った。「生活文化史概論」では考現学的見方と方法論、「生活文化史各論」では親族論ならびに生殖医療、「歴史文化論」では陰陽道と風水について、それぞれ講義した。「生活文化実習」では八王子市で祭礼調査を通じてフィールドワークの基礎を学ばせた。「生活文化史基礎演習」「生活文化史演習」では、『暮らしの中の民俗学』（波平他編、吉川弘文館）と『モノ誕生「いまの生活」』（水牛くらぶ編、晶文社）をテキストにして資料調査方法について演習を行った。「民俗文化史演習」では卒業論文作成のため演習を行い、今年度は2名の学生が日本民俗学会卒論発表会で発表した。

大学院では、「民俗文化特論演習」で小笠原流礼法の文書の講読を行った。

◆研究計画

職人巻物研究では、全国的に分布していること、中世も視野に入れることが確認できた。引き続き史料調査を行っていきたい。この分野については日本建築史との共同研究が可能である。

風水研究では、明治大学でシンポジウムを行い文化人類学、歴史学、思想史との連携した研究を進めることができ、来年度も継続して共同研究を行っていく。

◆メッセージ

大学はキャンパスで学ぶだけでなく、図書館や美術館・博物館といった学外の施設、さらにはフィールドワークにより広く学ぶところです。

私は機会があるごとに学生を連れて色々なところに出かけています。昨年度からは八王子市の八王子祭りで使用される山車の調査を行っています。聞き書き調査だけでなく、祭礼当日に山車を実際に曳くなど参与観察も行っています。お茶大に入って色々なところを訪れて学びましょう。